

コード	402080201
記入日	H24.6.8

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	犬塚 忠生

事業評価表【事後評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	教育の森整備事業
----------	----------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	3
基本事業コード	40208	基本事業名称	森林の公益的機能の維持増進	目コード	2
事務事業コード	4020802	事務事業名称	教育の森整備事業費	細目コード	845
関連計画		法令・条例規則等	森林づくり交付金事業		

計画 (PLAN)

※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 住民		(対象指標1)	22,720人口H23.4.1現在			
(対象2) 観光客		(対象指標2)	200,101人			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) ・林業体験施設 木造平屋1棟 221㎡ ・搾油体験機械等 1.0式 ・炭焼き体験施設 1.0式 ・森林学習歩道 L=121m W=1.2m	(平成22年度) ・林業体験施設 木造平屋1棟 221㎡ ・搾油体験機械等 1.0式 ・炭焼き体験施設 1.0式 ・森林学習歩道 L=121m W=1.2m (平成23年度) ・備品購入の一部	① 体験施設整備	1.0式	100%	実施施設整備÷	平成23年度
		体験施設整備	1.0式	100%	計画施設整備	平成23年度
		(達成率分析)	平成22年度からの繰越しとなっていた搾油体験施設用備品を購入した。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・「つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立するしま」と将来像にうたわれているように本町にはつばきが自生しその用材から実に至るまで利用されて来た。今はその利用方法はわずかな地区の高齢者が実施しているにすぎない。この伝統ある生活の知恵を、体験椿林から加工まで一環して学べる施設を整備し地元青少年はもとより、住民から観光客まで多くの人に学び体験し本町の文化の一端を感じていただきたい。		① 進捗率	63,612千円	100%	実施事業費÷	平成23年度
		進捗率	511千円	100%	計画事業費	平成23年度
		(達成率分析)	計画どおり事業が完了し、H23.4.26にオープンした。			
		② 利用者数	429名	17.6%	実績利用者数÷	平成23年度
利用者数	429名	17.6%	目標利用者数	平成23年度		
		(達成率分析)	利用者数（一般293名、小・中学生136名）は目標達成できなかった。今後はPRに努め利用率の向上に努める。			

実施 (DO)

※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。

	単位	全体計画 H 22 ~ H 23		22年度以前	23年度	
		計画	実績	実績	計画	実績
活動指標	① 式	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	②					
成果指標	① %	100	100	99.2	0.8	0.8
	② 人	2,440	429	-	2,440	429
総事業費 C (A+B)	千円	77,612	77,612	70,102	7,510	7,510
直接事業費 A	千円	63,612	63,612	63,102	510	510
人件費 B	千円	14,000	14,000	7,000	7,000	7,000
内訳	従事職員数	人	2.0	2.0	1.0	1.0
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円				
	県補助金	千円	22,256	22,256	22,256	
	起債	千円	35,100	35,100	35,100	
	その他	千円				
一般財源	千円	20,256	20,256	12,746	7,510	7,510

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1 次 評 価	妥 当 性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい いいえ	理 由	天然性有効原料である椿油は今の時代が求めている地産品のひとつであり、社会も地のものを探求している。疲弊しつつある離島・過疎地において自生椿と有効活用する気運を高めるためその文化を継承するためにも必要であった。
	有 効 性	・事業の目的は達成されましたか。	● はい いいえ	理 由	地区の子供達に古くからある椿文化を継承させる事が出来ると同時に島を訪れた人々に島の生活のありさまの一端を見て体験してもらう事ができ、初期の目的は達成された。
	効 率 性	・より少ない費用や業務量で事業や活動が効率的に実施できましたか。	● はい いいえ	理 由	施設の管理運営と椿に精通した振興公社椿油事業部に委託（指定管理制度）することにより、安価で効率的な業務運営管理ができています。

改善 (ACTION)

1 次 評 価	○今後の関連事業に対する改善点（事業方法の検証・事業の成果等の検証を踏まえて、今後の関連事業等に対する改善点）	<p>町の「つばきアイランドプラン」に関し、町民すべての人々が興味を持ちえていない。このことが椿関連事業の振興にブレーキをかけている。自生椿の自生という部分が、この地の自然気候に一番適しているという事をまず地元の住民に理解してもらい町外に対して宣伝普及してもらう事が大切である。いろいろなものに利用できる椿という産物を有効活用するにはまずは地の人住民の意識の高揚から始まる。</p>
	○目的が達成されていない場合の課題と改善策（目的が達成されていない場合、また、課題が継続している場合の改善策）	<p>利用者数の計画段階では、隣接するホテルの開業を見込んでいたがホテルの開館が11ヶ月遅れたため、予定利用者数に届かなかった。今後は開業したホテルのアピールまた観光協会や各地区、教育団体、地元団体への啓発普及を行う。</p>
2 次 評 価		<p>椿産業は、疲弊しつつある離島・過疎地域である本町において、自生椿を有効活用して地域の活性化に大きく発展する可能性がある。住民に対しての椿の理解と普及に努めて文化を継承するとともに、観光振興にも繋げていくこと。今後は施設の利用率向上にも努めること。</p>

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。